



都 第 4 7 7 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

かほく市長 油野 和一郎



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

貴殿におかれましては、日頃から土木事業の推進をはじめ国政の発展に献身的にご努力されていますことに、心から敬意を表します。また、石川県かほく市の道路整備の推進につきましても格別なるご高配を賜り、深く感謝申し上げます。

標記の件につきましては、地方の道路行政を推進する上で、必要な考えを別紙のとおりご提案申し上げます。何卒、趣旨をご理解のうえ特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

今日の社会基盤として最も身近であるべき道路整備については、「暫定税率関連法案」と「道路整備財源特例法案」の一般財源化の閣議決定に伴い多くの課題が残されております。

道路整備に対する市民ニーズは、都市部の渋滞・震災対策を中心に、地方部では企業立地や地域振興対策といった違いがあります。そこで過疎化が進む地方では費用便益費（B/C）などで議論されると、更なる過疎化への拍車がかかるだけでなく、生活道路、命の道路そのものが機能できなくなります。このような事態に陥らないためにも今後、国土交通省が中心となり何らかの基準・指標を定め弾力的な事業採択方針が必要と考えます。

かほく市においては、現に合併後も町会区長会からの要望は年間370件余りがあります。そのうち7割が生活道路に関する案件で、国や県への要望も6割以上が道路に関する案件でもあり、道路整備はまだまだ重要な社会基盤であります。

かほく市といたしましても道路整備にかかる予算の緊縮や維持管理に係る財源も「暫定税率関連法案」と「道路整備財源特例法案」の一般財源化により予算捻出が危惧されております。

また、地方分権により直轄国道の維持管理を県に移管する計画もありますが、一般国道159号については、石川県の主要幹線道路であり、かつ県土ダブルラダーの骨格として位置づけられており、引き続き国の責任において維持管理をお願いするものであります。

最後に昨今からの道路財源の在り方が不透明な中、真に必要な道路整備の財源確保が急務となっております。かほく市といたしましては、年内に行われる税制の抜本改革にあたっては、道路整備に必要な財源を確保するとともに地方への配分を高め、さらには、地方道路整備臨時交付金並びに地方道路整備臨時貸付金（無利子貸付制度）の継続についても、その趣旨を鑑み地方が主体的に道路整備を行えるような財源の確保・拡充をお願いするものであります。

②-1 地域の現状と抱える課題

石川県かほく市

○現状

かほく市は合併を機に、都市計画マスタープランに基づく幹線道路網整備計画を策定中であり、地域間（都市間）を連結する道路整備の促進や渋滞緩和を目的とした効果的な道路整備を推進しています。

かほく市における都市計画道路の状況は、幹線街路として26路線、計画延長43,760m、歩行者専用道路として1路線延長230m、合計27路線延長990mが都市計画決定されていますが、整備状況については、改良済延長13,373m、未整備延長30,617mであり、整備率は30.4%と県平均の52.1%（H16.3.31現在）より低い整備率となっております。

かほく市の社会基盤整備といたしましては、東西ネットワークの不足、生活道路の改善、身近な公共交通手段の不足等が掲げられます。

特に、かほく市内国道159号などの通学路や歩道整備については一部整備が進められていますが、歩道幅員の狭小な区間や歩道未設置区間などの通行障害箇所が見受けられ、早急な対応が必要となっております。

○課題

かほく市の都市計画道路網は、総じて南北方向の道路密度は高いものの、東西を結ぶ道路密度が脆弱で、東西ネットワークの充実が必要とされる。

かほく市の都市計画道路の整備について、特に旧市街地では、ほとんど整備が進んでいないため、今後の更なる整備促進のほか、近年の厳しい財政状況を鑑み、効率的・効果的な整備を進める必要がある。

社会基盤整備については、広域的、地域間の連携を強化し、互いに発展する都市づくりや道路づくりを推進し将来に亘り地域住民が安心して暮らせるよう、効率的な整備が必要とされる。

また、歩道整備など生活に密着している身近な整備については、今後歩行空間のあり方も含めた、安全で安心なまちづくりを検討し、児童・生徒や高齢者の安全性の確保と交通円滑化を図る。

②-2 地域の目指すべき将来像

地域の目指すべき将来像としては、地域の特色を踏まえた適切な交通施策の展開を踏まえ、それを可能にする社会的な基盤を構築する必要があります。

今般の社会状況の変化の中、環境や景観、観光、福祉、防災等の視点を踏まえたまちづくりを進めていくことが重要と考えられ、特に、次の視点を重要視し目指すべき将来像として位置づけていきます。

- ・ 市民の生活及び経済活動の共通基盤であるとともに、限られた資源であることを踏まえ、公共の福祉を優先しつつ、商工業機能の適切な集積を図るなど、総合的かつ計画的な土地利用を推進して自然と調和した快適で魅力ある都市環境の形成と市全域の均衡ある発展を図ります。
- ・ 市内の均衡ある発展や防災面の向上を図るため、東西幹線道路等の市内幹線道路網の整備を重点的に進めます。
- ・ 地域性や事業効果を考慮しながら、歩道の新設、拡幅、バリアフリー化、踏切改良等、市民にやさしい道路空間を創出し、交通の円滑化を進め、市民への安全で安心な歩行空間の確保に努めます。
また、除雪体制の強化や消雪施設の設備等、雪に強いまちづくりを推進します。
- ・ 情報化による活力のある地域づくりを目指し IT を活用した市民のコミュニケーションの拡充や行政サービスの向上に取り組むほか、高速大容量の情報通信網の強化を図るため、ケーブルテレビ網の普及・拡大に努めます。
- ・ 民間の優良な宅地供給を促進するとともに、低所得者層、高齢者及び新たな居住者の幅広い要望に対応した公営住宅の更新・整備等に取り組み、定住化を促進します。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

石川県かほく市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	※地域連携事業（直轄国道事業） ・国道159号 津幡バイパス事業 （現在2車→全線4車化）	かほく市の南北幹線としての国道159号は、地域間の時間短縮、慢性的な渋滞緩和の解消を目的に整備が進められ、平成18年の山側環状道路完成、接続により、能登から金沢、加賀地区までのアクセス向上が飛躍的に図られ、県下の大動脈として機能強化が図られた。さらに平成20年10月末には、かほく市内の沿線に大型ショッピングセンターがオープン運びとなり、企業誘致の面でも大きな効果が伺える。一方、オープンに伴い渋滞が懸念され、早急な4車化整備をお願いするものである。本路線の4車化事業により、一層の渋滞緩和並びにスムーズな地域間での移動効果は絶大である。	
・地域活力の向上	※広域交流幹線軸整備事業 ・河北縦断道路整備事業	河北縦断道路は国道159号押水バイパスから津幡北バイパスまでの重要な広域幹線道路として位置づけられており、一部供用開始に伴い、沿道に優良企業の立地が図られ、この幹線道路整備効果は絶大であります。さらに、沿道レクリエーション施設への利便性が向上するとともに、国道159号のバイパス機能が期待され、市内の通過交通の分散効果は非常に大きい。	
・地域活力の向上	※東西幹線事業 ・東西幹線道路整備事業 （合併支援道路）	かほく市内での地域間交流を促進するため、合併支援事業として整備を行っている。 かほく市の今後の都市交通体系を形成する上で東西の均衡ある発展と地区間の円滑なアクセス、緊急車両・災害支援道路として期待され市街地形成促進効果は非常に大きい。	
・少子・高齢社会 に対応した子育て 環境、バリア フリー社会の形 成	※身近なプロジェクト 国道159号 「かほく市自歩道整備事業」 ・かほく市松浜自歩道事業 ・かほく市二ツ屋自歩道事業 （安全で安心な自転車・歩行者空間の確保）	現在かほく市内2箇所で開催中の自歩道事業について、二ツ屋～外日角間約6.9kmの整備に地域の道路沿線住民からなる協議会を組織し、整備優先箇所の抽出と地元の協力体制づくりが可能となり、円滑な事業推進が図られ、整備後は自歩道として、地域住民の安全で安心な歩行者空間の確保には最適である。	